



『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

◇牧師からのメッセージ

Christian Stewardship: 神が求めておられるもの アメリカの教会でよく耳にするstewardshipという言葉日本語に訳すのは難しいのですが、おおまかに言うと、献金の大切さを強調する言葉として使われています。それは間違いではありませんが、stewardshipにはより広い、また深い意味が込められています。一言で言えば、時間、賜物(関心、資質等)、金銭、そして自分自身を神と人のために捧げることを意味します。それは、「心をつくし、精神をつくし、魂をつくして神を愛しなさい。そして隣人を愛しなさい。」という聖書の言葉に明かです。(マルコ12:29-31)◆この文脈でイエスが語られた3人の僕(しもべ)の譬えを思い返してみよう。(マタイ24:14-30)主人が、3人の僕を呼びつけ、それぞれ5000枚の銀貨、2000枚の銀貨、1000枚の銀貨を渡し、それを有効に使うようにと命令した上で旅に出ます。帰ってくると、主人は彼らにお金をどのように使ったかとたずねます。5000枚の銀貨を預けられた僕はその倍を儲け、2000枚預けられた僕もまたその倍を儲けます。ところが1000枚預けた僕はそれを土の中に埋めて、有効に使おうとしませんでした。主人は2人の僕を誉め、3番目を怠惰な僕として強く叱責した、というのです。◆主人とは神のことです。僕とは私たちのことです。ここで何故一人一人預けられた金額が違うのかを詮索することは意味がありません。それは譬えの中心ではないからです。重要なのは、3人のうち2人は神の思い通りに与えられたものを増やした、つまり神と隣人のために有効に使おうと努めた、しかしもう一人は、神の思いに全く無頓着、無関心を決め込んでしまったというこの1点に絞られます。◆これ以上解釈を施す必要はないでしょう。私たちはイエスからあの二人の僕となるように、勧められ、説得されているのです。神から与えられた時間、才能、金銭、そして自分自身を神の栄光と隣人愛のために捧げるようにと背中を押して頂いているのです。◆JACUでは10月をStewardship Monthと定めています。3人の僕の譬えを思い返し、奉仕の心を深め、2011年という新しい教会暦に向かって一歩踏み出そうではありませんか。

◇日曜礼拝説教の要約◇

■ **9月5日「カナでの奇跡:その意味は？」ヨハネ福音書2章1-11節** 主イエスは多くの奇跡を行われました。その意味を理解するためには、奇跡の行為そのものではなく、奇跡が何を意味しているかを把握しなければなりません。奇跡が何を示しているかを考えずに、奇跡の超自然的現象だけに注目するならば、私たちはその最も重要な部分を見落としてしまうことになります。◆カナでの結婚式におけるイエスの奇跡に見てみましょう。イエスとその母マリア、それに彼の弟子達が結婚式に招かれました。その当時、婚礼のパーティーは7日間続き、村中の人々が踊り、歌い、大量の食べ物を前にして、酒を酌み交わしたのです。婚礼のパーティーで一番大切なのは質の高い葡萄酒を用意することでした。それを十分用意できないと、新郎新婦とその家族にとって最も不名誉なこととされていたのです。さて、マリアは葡萄酒が足りなくなっている事に気づきます。招待する側ではなく、招かれた側にいたマリアにとっても、大事な事だったのです。イエスはうろたえる母親を沈め、水を素晴らしい葡萄酒に変え、その場を救ったというのです。◆このエピソードが示すもの、それは、イエスが居る所では、葡萄酒は絶対なくなることはないという信仰の告白です。私たちがパニックに陥ってしまうような時、心が落ち込んでしまってもどうにもならない時、主イエスは私たちを救い上げてくださる、という信仰の告白なのです。主イエスの「重荷を負っているすべての人よ。わたしの下へ来なさい。」カナでの結婚式の奇跡は、この言葉の絵解きなのです。◆私たちが主イエスの存在を身にしみて感じる時、深い悲しみの中で慰めを得る時、わたしたちが共に賛美を歌い、祈りを捧げる時、水は葡萄酒に変えられるのです。奇跡は今、現在起こっているのです。

■ **8月22日「イエスは批判者も愛したのだろうか」ルカ福音書13章10-17節** 神は人間を徹底的に愛されて止むことはありません。それは、主イエスが18年間も腰が曲がって歩くことの出来ない女性を、安息日にも関わらず癒されたエピソードに明らかに示されています。◆安息日というのは、祈りと冥想に費やす日と定められ、律法によれば働くことを禁止されている特別な日のことです。主イエスはあえて律法を破り、人間は律法の遵守よりも大切だと証明されました。この主イエスの八方破りの愛は、律法学者達を憤慨させました。また主イエスは、「この女性もアブラハムの家族の一員だ」と言い、神の前でこの女性は、律法学者や祭司と何ら変わるところはない、生きる価値のある、誰も代りを務めることのできない、一個の人格的存在だということです。主イエスの癒しの中核は、その真実を彼女の心の中に叩き込んだところにあります。彼女を、神に与えられた自己の尊厳に目覚めさせ、自己卑下という地獄から解放したのです。◆さて、主イエスは、彼を批判した律法学者をも愛されたのでしょうか。確か

に、主はこの律法学者をも愛されたのです。彼らの心が氷のように冷たく、愛に欠けているという事実を目の前に突きつけることにより、主イエスは律法学者が一番必要としていたものを与えられたからです。主イエスの愛は優しさだけではなく、厳しさも含んでいるのです。◆優しさと厳しさは愛の両面です。律法学者たちのように、主イエスは私たちが見たくない心の内面を暴かれます。実はそれが、主イエスの愛の厳しさなのです。果たして、私たちはイエスの厳しさを前にして悔い改めるでしょうか。それとも頑な心を持ち続けるのでしょうか。結末は私たちがつけるのです。その私たちに主イエスは辛抱強く、忍耐強く待ち続けておられます。辛抱強さも、忍耐も、イエスの愛の重要な要素なのです。

◇教会の建物修理◇

建物修復委員会報告 6月27日に開催された教会総会で、建物の専門家に点検・検査を依頼する旨が承認されました。それを受けて建物修復委員会は建築家ジェームス・クルーリー氏を総責任者として任命しました。その指揮の下、点検・検査は終了し、その結果が委員会に報告されました。それによると、私たちが考えていたよりもはるかに迅速かつ徹底した修復が不可欠であることが明らかになりました。◆修復を必要とする事項を4段階に分類した報告書が9月11日の理事会に委員長から提出され、理事会はそれを受理しました。またその日の理事会は、第一段階に必要な25万ドルを、教会の資産から、出来る限りそれを埋めていく努力をするという条件で拠出することと、10月3日に教会総会を開催することを承認しました。修理・修復の第一段階は非常に大幅なもので、その内容は、建物の裏側の修理・修復(これは 冬の到来前に完了しなければなりません)、屋根の取り替え、建物の外面の修理・修復、3階事務室の三つの窓が板で塞がれている という市の建物規則に違反している状態を解決するために新しく窓をつけること、道路に面している二つの扉を新しい、市の基準にあったものに取り替えること等です。◆以上のことを詳しく説明した手紙を教会の会員の方々にお渡ししてあります。会員以外の方やまだ受け取っておられない方は、丸橋理加、エリザベス鈴木、又はオフィス・スタッフにお申し出下さい。◆どうか建物委員会のためにお祈り下さい。また建物の修理・修復をこの先何ヶ月も受け持つ人々のためにもお祈り下さい。

◇ファミリーキャンプ◇

■**東海岸合同ファミリーキャンプ** 今年で3回目となる東海岸日本語教会合同ファミリーキャンプが、9月4日(土)から6日(月)にかけてエレンヴィルで開催されました。参加者は380名を数え、JAUCからも35名が参加しました。今回のゲストスピーカーは、テレビ伝道を通して広く福音を伝えられている榊原寛先生です。以下、先生のメッセージのエッセンスを紹介します。(1)『愛に輝いて生きる』ヨハネによる第1の手紙4章7-11節。「この聖書の箇

所は『愛する者たち』との呼びかけから始まっています。全能の神様が『愛する者』と私たちを呼んで下さるのなら、もうそれだけで大丈夫だと思えますね。私たちのために、イエス様は命をかけて下さっているのです。その方に私たちはつながって生きていくのでしょうか。これほどまでに愛されているということをよく考えて、人生を歩んで行きましょう」(2)『祝福の使命に生きる』創世記11章27節-12章3節。「アブラハムとその家族は辛い人生を過ごしていました。しかし神様はその彼に『あなたの名は祝福となる』と約束します。神様に委ねて住み慣れた地を出て行くことで、祝福そのものにして下さると言われるのです。この招きに『はい』と言うか否かが私たちの人生の鍵になります。私は6歳の次男を交通事故で亡くし、悲しみのあまりもう牧師は続けられないと思ったほど辛い毎日を過ごしました。自分の人生が荒地、砂漠のように思える時があるかも知れませんが、神様の愛を信じて歩んでいきますか」。(3)『神の目に映る者の姿』イザヤ書43章1-7節。「私は13、14歳の頃うつになり、5年間引きこもりました。死ぬことばかり考えていましたが、隣家に教会が引っ越して来て神様のことを初めて知りました。神様に愛される価値なんて私には無い、そう思いました。しかし神様は私たちを『高価で尊い』と言って下さるのです。地球上に69億人の人がいますが、その内一人が欠けても神様の目には世界は完全ではないのです」。(4)



『私たちの痛みを担うイエス』へブル人への手紙2章17-18節。「ここでは、主イエスはご自身が苦しまれたからこそ苦しむ人間を救うことが出来る」と記されています。私の息子の葬式の際、

お会いしたことの無い夫婦が何組も来て、私の手を握って無言で涙を流され、それだけで帰られました。後で聞いたらそのご夫婦がたもお子さんを亡くされた経験があるとのことでした。私はその時、まるで初めてであるかのようにキリストに出会ったのです。少しずつ『死んだ息子の分までお役に立たせて下さい』と祈れるようになりました。このイエス様が私たちとともに生きておられるのです。主の証し人として、職場や家庭で輝いて生きて行きましょう」。(4)◆キャンプには音楽ゲストとして岩渕まこと・由美子ご夫妻も参加して下さい2日目の夜にはコンサートが開かれました。この席でご夫妻は、信仰を受け入れるに至った経緯、また幼いお嬢様を脳腫瘍で亡くされた痛みなどを語って下さいました。◆この他、ポストン福音教会の道上誠子師らによる証し、岩渕兄による賛美セミナーその他のワークショップ、子供たちによる賛美、スモールグループに分かれてその日の思いを分かち合う時間など、盛り沢山のプログラムがあり、参加者一同印象深い時間を

日米合同教会月報63巻2010年10月号

ごしました。JAUCでの窓口役をして下さった鈴木香姉、バスの手配をして下さった吉田小夜子姉に心から感謝します。

◇コンサート◇

■**岩渕ご夫妻のコンサート** ファミリーキャンプに続いて、岩渕まこと・由美子ご夫妻によるコンサートが9月7日(火)夕にJAUCでも開催されました。曲目テレビのCMソングから星野富弘氏の詩に音楽を付けた「ぺんぺん草の歌」「松茸がんばれ」、横田早紀江さん(横田めぐみさんの母)の作詞による「コスモスのように」まで多岐にわたり、最後は「God Bless You」で結ばれました。歌の間にご自身の人生、神様との出会いに関して語って下さいましたが、軽妙な語り口に会場中に笑いがあふれました。お嬢様を亡くされた際の心の苦しみ、またその時与えられた神様の慰めに関する奥様の話には、皆深く心を打たれました。

■**被爆ピアノの会** 9月19日(日)午後3時から、国連平和デー被爆ピアノ平和コンサート実行委員会による「被爆ピアノ」コンサートがJAUCで開催されました。このドイツ製のピアノは広島で原爆の際に破損したもので、背面には爆風による生々しい傷跡が残っています。当日は礼拝堂が満員になるほど来場者があり、ハーレムの日本人クワイヤ「ココロクワイヤ」(熊田法子姉もメンバーです)によるゴスペル賛美、日本・アメリカの高校生による平和を願う合唱などに聴き入りました。

■**桧原教会音楽グループの来訪** 故村上清子姉が牧会されていた桧原教会から9月下旬、音楽グループの方々をNYを訪ねられ、26日(日)午後にはJAUCで音楽会を開催して下さいます。

◇お知らせ◇

■**秋のアルファコース** 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファコース」が、9月22日から再び始まりました。11月24日まで合計13セッションがJAUCで持たれます。各セッションは毎週水曜日の午後7時から9時15分までの予定です。問合わせはダウンズ理加姉・ジェリ吉田姉まで。

■**新しい讃美歌の献呈式-10月10日** 11時からの礼拝の中で、最近購入した新しい英語讃美歌の献呈式が執り行われます。多くの会員の方々や日米合同教会を心にかけてくださる方々が、このプロジェクトに積極的に協力して下さいました。この場を借りて御礼申し上げます。どうぞ10月10日の礼拝を覚え、出席されるようご案内申し上げます。

■**VIP集会** 9月のVIP集会は13日に開かれ、プリンマー日本語教会の李キスプ先生がルカ福音書4章18節に基き、「福音には、私たちの人生を縛っている罪・過去の傷から私たちを解放する

力がある」とのメッセージを述べて下さいました。NY・NJ地区の日本人信徒が集まって学びや証しの時を持つこの集会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUCで開かれています。

◇メンバー関連◇

■**転会** ロバート・アセバード兄がマーブル・カレッジイト教会へ転会されることになりました。また、今年1月に帰国された丸山峰子姉が先日、東京新宿区にある日本ホーリネス教団東京中央教会へ転会されました。聖歌隊で活躍されるなど充実した教会生活を過ごされているそうです。同教会はニュージャージー日本語教会の錦織学先生のお兄様である錦織寛先生が牧会をされており、寺田涼子姉も時々通われています。■**浅井ひさよ姉の転居** JAUCの長年のメンバーである浅井ひさよ姉は、しばらくマサチューセッツにあるお嬢様のナンシー・バーカー様の御宅で過ごされます。当地での浅井姉の住所は下記の通りです。c/o Mrs. Nancy Barker, 43 Main Street, Hartsfield, MA01038 浅井姉の健康のためにお祈り下さい。■**林ご夫妻の訪問** 1960-70年代にJAUCのメンバーであった林光夫兄と奥様の恵美姉が9月19日の日曜礼拝に出席され、当時の思い出を語って下さいました。林兄は、JAUCが現在地へ移転する際に建物委員会の一員として奉仕して下さいました。現在はヴァンクーバーにお住まいです。なお、この日の礼拝には東京から司馬純詩兄、ハワイから白石義典兄も来られました。■**慎也君の作文** 日曜学校に通われている石神慎也君の作文「しんごう」が、9月4日の「週間NY生活」に掲載されました。ソーシャルホールの掲示板にコピーが貼ってあります。■**寄贈** 桑田ハリー兄が2台の扇風機をソーシャルホールに寄贈されたほか、教会の冷房設備のために寄付を寄せて下さいました。感謝いたします。

◇祈りのリクエスト◇

次の方々を祈りに覚えて下さい。浅井ひさよ姉、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、神崎ヨネ、小口愛(ウェストミンスター教会)、久保スウ、ゴーマン美智子、野間美奈子、デスピナ・プロドロミス(ホーガン姉のお嬢様)、松本二三子、湯沢キミ諸兄姉



スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェローシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。

- SG 1. 女性信徒の学び会(ハインガル) 第2、4土1時 時田姉orクラーク姉宅
SG 2. 日本人女性の会 第2火11時 時田姉宅
SG 3. 男性信徒の学び会(ハインガル) 第2、4日9時半 教会(日下部兄)
SG 4. 日本語での学び会 第2日2時 教会(春日姉)
SG 5. 日本語「葡萄の木」の会 第4日2時 教会(小林姉)
SG 6. 日本語「証しと祈りの会」 毎月最終金夜7時 寒河江兄宅
SG 7. 英語での学びの会 毎月第3日曜 教会(吉田夫妻)